



開校67周年

落 六

学校だより……566号

令和7年10月1日

<http://www.shinjuku.ed.jp/es-ochiai6/>

新宿区立落合第六小学校

校園長 百合野 壽郎



一秒の言葉

副校長 原島 謙一

一秒の言葉 作 小泉 吉宏

「はじめまして」
この一秒ほどの短い言葉に
一生のときめきを感じることもある
「ありがとう」
この一秒ほどの短い言葉に
人の優しさを知ることがある
「がんばって」
この一秒ほどの短い言葉で
勇気がよみがえってくることもある
「おめでとう」
この一秒ほどの短い言葉で
しあわせにあふれることがある
「ごめんなさい」
この一秒ほどの短い言葉に
人の弱さを見ることがある
「さようなら」
この一秒ほどの短い言葉が
一生の別れになる時がある
一秒に喜び 一秒に泣く
一生懸命 一秒

この詩は、道徳の副読本にも使われている詩です。

日常何気なく発する短い言葉ですが、人はその言葉に心を動かされ、気持ちを込めて相手に伝えていきます。また、ちょっとした言葉でやる気を出したり喜んだりするとともに悲しんだり落胆したりします。ですから、ほんの少しの心の言葉で上手く人間関係も築いていけるのです。

子供たちは、夏休みが終わり、この1か月間で心も体も成長しています。しかし、この1か月の間に「一秒の言葉」をどれくらい伝え、人とつながってきたでしょうか。ところが、時には、その日の気分や調子で、心もとない言葉を発してしまい、関係を壊したり、相手を怒らせたりしたことはないでしょうか。そんな時もちょっとした心に余裕をもって相手のことを考えてあげられるようになるとお互いが気持ちよく過ごせるのではないのでしょうか。

この詩に書かれている言葉はどれも「一秒」で伝えられる言葉です。10月は、何をするにもよい季節です。色々なことに取り組む中で、人と関わります。そんな時にこそ、自分が言われたら嬉しくなる「一秒」の言葉を使って人間関係が円滑になるようみんなで心がけていきたいものです。

学年活動紹介 ～4年生～

4年生は総合的な学習の時間「染に学ぶ」で、新宿区の伝統工芸である「染物」について体験的に学びを深めています。染の里おちあいの職人さんをお招きして、7月10日には「引き染め」、9月2日には「藍のTシャツ染め」を行いました。今回は「Tシャツ染め」の感想の一部をご紹介します。

・初めて染め物をして、大変なことがたくさんありました。例えば、輪ゴムをつけても飛んじゃって、またつけないといけなくなってしまうことです。他にも、水に入れてしぼるのが結構力が必要で手が痛くなってしまったので、少しだけしか絞らなかつたら、青いところより白いところの方が多くなってしまいました。(I・Y)

・設計図を書いているときは不安だったけど、実際にやってみたら思ったよりもできて楽しかった。なぜ、空気に触れると青に変わるのか不思議に思った。(K・M)

・ちょっと難しくて、本当にできるのかなと思っていただけやってみたら、楽しくてもっとやりたくなりました。染料は、葉からとると教えてもらったけど、どうやってとるのか知りたいです。(A・S)

・私は、渦巻きのやり方でやりました。最初はくるくる巻いて、輪ゴムで止めるだけだと思っていたけど、やってみると結構難しくて大変でした。デザインは完ぺきではなかったけど、結構いい感じに出来て良かったです。難しかったけど、楽しかったです。(B・H)

・思い通りに染めることはできなかったけれど、初めて藍染めをやってみてすごい楽しかったです。水で洗うのが大変だったけれど、染の里おちあいの職人さんが手伝ってくれてきれいに染められました。最初、緑色で「あれ？」と思ったけど、後から青になるのが不思議でした。(S・K)